

『南支派遣皇軍慰問行記』(下)

藤井奈都子

・旧字体を概ね新字体に改めた以外は、用字・句読点等みな原文通り。

〈承前〉

一月四日 晴／六時起床全力を挙げて出発準備す／南支の六時はまだ月が出てゐる七時／住みなれし大倉部隊にお別して入／谷部隊を通り朝日棧橋に行く／思ひ出の多い広東四十日の故郷／！！顔順染の将校連多数お見／送り下さる／八時軍用船二三五号は小波を後に／出航する／何時の日か再来できるかこの広東よ／もう一度来るそれまで左様なら。昨日／よりの病状は一向に快方に向わず発熱さ／へ覚ゆる午後六時九竜に到着す／宿舎は横山ホテルと定まる一同落付／く私と石田さんは三階の三〇三号室で／大きなお部屋ベッドと洋服ダンス又／トイレ付の一番上等のお部屋二人で思は／ずほつとする夜は頭痛になやまさ／れる

一月五日 曇／午前九時まで床に居る七時半でも外／は暗い九時半総督府の内山氏来る／御挨拶の後九竜市内を案内して下／さる広東ニ較べると実に清潔な／感じ十二時半お別れする鳳兵団へ／出す作文に半日を費す夕方中野軍／曹来る夕食後は荷物の整理する／石田氏高地少尉を思ひ出して居る。

一月六日 晴／七時ラヂオ体操の音で目が覚める／まだ暗い 八時半朝食総督府富／原氏より電話あり連絡船に乗り／香港へ行く英国

が金にあかせて造／つた立派な港、二階付電車に驚く／総督府副官部に挨拶後バスで／虎文庫の家を見に行く希代の／豪商なれば実に装飾に贅をつ／くしあり毒々しい原色が用ひてある玉／や翡翠や偉大な象牙等沢山に／あつた 帰つてホテルで昼食して後九／竜側の香港第一病院押火部隊に／行く舞台は立派なれど油が塗つてあ／りすべるので演芸は大変困つた ホテル／にて夕食なし兵站へ行く電蓄故／障のため八時より開始する風強く寒／き夜である終つて十時半ホテルに帰／る本日より例外なる尉官待遇と／なる。

一月七日 晴／八時半香港へ行く富原氏の誘導／にて香港陸軍病院へ行く山頂の／白亜の建物で夢の国の如き感じた／昼九枚敷の舞台ですぐ前まで白／衣の勇士がつめてゐるので演芸も変の／気がする 終つて十二時緑ヶ浜なる／療養所に行く其の昔海水浴場たりし／所しパレスホテルなのだ腹立たしい／程の豪勢さに驚く、ダンスホール跡なので／音響よく調子上々で演芸を終了休／憩の後憲兵隊本部へ行く隊長と／夕食を共にし団長殿挨拶の時泣き／出し笑ふに笑えず一同苦しい事 演芸／を終つて十一時過ぎ横山ホテルへ帰る／憲兵隊にて名煙草エンバシー三個づ／つ掠奪するとは実にすごき腕なり／本日は三回興行が初めてあつたので一同／疲かれる。

一月八日 曇／七時半明けやらぬ中に第三棧

橋へ／板津部隊長門口部隊長をお見／送りに行く、九時三十分香港へ行き／消防の出初式を観る野間憲兵隊／長か査閲される総督府の内山、富原／氏と東亜にてお茶を飲み後総督府／に昼食する チヤール給与なるビールで／乾杯する 後海軍根拠地部隊へ行く／二時半より演芸開始建物の立派な／部隊である 終つて六時副長と会食／する六時三十分から夜の部の演芸を行ひ／十一時ホテルへ帰る、本日も入浴が出来な／かつた

一月九日 曇／今朝早やく起きすぎて困る一同六時半／起床せり八時深川より迎え来たる／二時間半ほどドライブウエーを走る極め／で気分良し本日は寒く炭火もなつかしい／小さな舞台で演芸の調子悪し、昼／食后川口部隊は都合悪く海岸／にて砲艦須磨を見付けて迎へのラ／ランチに乗り艦に行く狭い部屋で演／芸を行ふ旭艦長はホガラカな人／でお話の時の過ぐるを忘れるランチ／に送られ帰宿する

一月十日 曇／本日はお腹の調子悪し昨日の大食が／当つた様子で半日ベッドにもぐり／で起きず断食する三時半足立司／令官より迎えあり行く演芸は／六時に終了すお腹に力がないの／で演芸苦しかつた 副官の案内で／官舎に行く宴会たけなはなるとき阿／川中尉は安来節を辻村大尉は歌謡／曲副団長のどじようすくいなど面白／かつた広東語の上手な藤川副官の／(遠慮なく頂戴します)の歌語が／面白かつた私は何もたべれないので一寸／悲感なり十時半又を約してお別れ／する。

一月十一日 晴／九時半まで寝忘れて副団長に叱られる／仕度して平安劇院へ行く二時半演芸／開始五時終り中村中尉の宿舎に行き／御馳走になり七時より夜の部を始める／九時半終了ホテルに帰る水風呂に入る／夜は遅いので西洋風呂はお湯が無い／十一時消灯す。

一月十二日 晴／九時半総督府に行き荷物を置き／ハイヤーにて香ヶ峰(ピクトリヤピーク)／に行く山頂の道を一廻りなし峠の／思

雲亭にてぜんざい二はい、おはぎ／一皿を平げて下山する総督府で／昼食し明治戲院で午後の部及び／夜間の部の演芸を行ひ十時過ぎ／ホテルに帰る 下士官俱樂部へ／入浴に行く プールに飛び込み団長を／驚かす 風呂は水風呂やらプールやら／南支の冬は暑くはない、やつぱり涼し／いのに？

一月十三日 晴／八時半起床朝食後買物に外出する／午后大町部隊へ行き演芸を行ひ／四時半終了小休止の後工作部の／ランチに乗る 夕食は将来と共にし／七時より夜の演芸を始める九時半／終つてランチにて送られホテルへ帰る洗濯などをして十一時頃着床

一月十四日 晴／朝から小暮中尉の案内にて香港攻略／戦跡めぐりをする昼食後二時まで／ソファアの上で昼寝する／二時半憲兵隊に行き写真の検閲を／して貫ふ四時半香ヶ峰のふもとの／隊長の官舎へ行く 本日は私の誕生日／祝詞は飛び来るブドウ酒沢山飲み一寸／酔ふ団長は御機嫌副団長と隊長は／寝る十時近く矢田貝副官に送られて／ホテルへ帰る

一月十五日 晴／本日は休養日本来なれば乗船予定な／るに都合悪く、由軍医さん方と香港／へ買物に行く、泥棒市場を見学する／下士官俱樂部でぜんざい、おはぎを食／べる美味しい久方振に熱い風呂に入る／事が出来た

一月十六日 晴／午前中休養 午後海軍病院へ行く初／初めての慰問の事とて大喜こびに気持／を良くする夕食を士官の方々と共に／して九時に帰る 吉川、高木軍医少佐／来たりて私の部屋で東亜ホテルの焼／そばを食べる 午後十時頃着床。

一月十七日 晴／九時半足立閣下の司令部へ行く種々お／話を聞き官舎へ行き英国はなぜ負けた／かの講義を聞きお花を探がす兵食を／戴きお花を生ける娘達の生花を各／部屋に配置する閣下は御満足なり／四時半荷物を持ちて第十一特工部へ／行き演芸を終了十時頃警戒警報／に入り暗い中をフェリーボートで九竜／へ送られ帰舎す。

一月二十一日 晴／本日休養日宇都木さん下痢にて寝込む／お船はだん\／出航延期となる六時／藤川副官来るお抹茶など差上げ／お話しする。

一月二十二日 曇／総督より外出を止められお金は無く一同／籠の鳥、風邪気味で一日ベッドにもぐり込んで休む 五時半足立閣下より／お迎えあり官舎へ行く 記念写真を／取るお酒をのんだので御馳走が食べられない十二時半ホテルへ帰る

一月二十三日 晴／午前中休養二時頃憲兵隊へ行く／午後六時ホテルに帰る本日閣下は深堀／へ行かれて留守の由、

一月二十四日 晴／今日も慰問行無し午後酔っぱらいの兵隊／来る私が全力をつくして撃退する六時／頃藤川副官来り明日の打合せをする／幸便の検閲をたのむ夜一同は東亜ホテル／へ行く私は風邪で床に居る、

一月二十五日 曇／午前軍医さん達五名油頭に帰られる／ので棧橋見え送る 本日も体の調子悪／し 五時半閣下よりお迎え来るお酒／の給仕も楽ではない でも御機嫌が良／いので嬉しい 藤川副官は又もや酔ひ／つぶれる 二時か帰舎着床す

一月二十六日 晴／午前中休む／舌が真白く食事進まず午後／お薬を取りに病院へ行く夜は閣下の官舎へ／行く本日も又二時頃床につく

一月二十七日 晴／毎朝食事しないので姑娘に恥しい昼食後／閣下よりお迎えあり行く芸妓連の踊を／見る四時半お茶を戴きお別して総督／閣下の官舎に行き支那料理の御馳走に／なり後応接間で演芸を行ふ九時半／ホテルへ帰る

一月二十八日 晴／午前中は部隊名の調査をして一同話／に花／を咲かす 夕食後細野さんが来られそこへ／足立閣下が来られた 横山ホテル始まつて／初めての将官の来訪とてホテル側は驚く／面白い話しばかりで時の立つのも忘れる

一月二十九日 晴／今日は午前中ねてゐる夕方足立閣下の所へ／行く本日の宴会は面白くなかつた十二時／過ぎに帰る

一月三十日 晴／足立閣下の御尽力で団長のみ飛行機で／明日帰られる午後閣下の官舎に花を／生けに行く夜は団長の送別の宴をなす／閣下より電話来り団長等と四人で官舎／行き三時に帰舎する

一月三十一日 晴／団長殿の御手伝ひをする十一時足立閣／下へ挨拶に行き一同飛行場へ行く／閣下もお見送りされた／五時頃官舎に行き腕を振つてお料理／を作る本日の閣下の御機嫌悪し自動／車が事故の爲め藤川副官と車の／後おしをする、

二月一日 曇／午前中荷物の整理する明日は乗船／十時半頃副官より電話あり午後木下／部隊の記念祭に出席す瑞穂踊と／みたら音頭を総員にて踊る二時半／総督に挨拶を述べ内山氏と松原ホ／テルにておしる粉ケーキなどたべ郷／土出身の鈴木氏の招宴にて新香会／館へ行く夕食後閣下の所へ行く／いよ\／お別れ故閣下は淋しそう／十時半頃ホテルへ帰る明日はいよ\／このベッドともお別れである

二月二日 雨／七時半藤川副官来るお土産を戴く、毛／糸とほてい様と恩賜の煙草とを九時／半副官の車で閣下の官舎へ行く本日は／記念祭にて御多忙なり直ちにおい／ともして帰る別れの雨は降る 二時乗／船する 四時頃副官来る ケーキを持／つて又閣下の書かれたハンカチを持つて／来て下さつた／四時出航予定なれど沖の都合悪しく／見合す狭い船室にて静かに夜は更／けて行く閣下に電話すれば香港へ／お出かけ故留守 宮地兵長一パイ気／嫌にてサイダー五本持つて来る其の後／は静かな事船名は長城丸(二千五／百トン)

二月三日 曇／七時半起床座して丁度位の船室すぐ／隣りは兵隊、船底におる慰問団は／あわれなり／十時頃副官横山ホテルのケーキ

を持つて／来て下さる昼食後デツキに居ると聞／き覚えの警笛を耳にする やつぱり／閣下と副官だ東亜ホテルのケーキとコーヒー／を戴く／今夜はお船は出ない、思出深い九竜、忘／れがたい土地別れがたき心かな 同じ土地／でも海と陸もう一度ホテルへ帰りたい、／船出淋しや、思ひは残る、時計の音がさ／えて睡眠が出来ず、

二月四日 曇／今日も動かぬお船で夜が明けた宮地兵長／がミルク砂糖六方焼を持つて来て下さる／昼食後副団長の命令で藤川／副官に電話してお箸と煙草を持つて来て下さる様と、／四時いよ／九竜ともお別れ寂しい。／ドラが鳴る出帆だ九竜よ、大陸よ、閣下／そして大好きな官副川藤〔クンフーチエンタン〕！！お元気／でね、故郷へ帰る我、嬉しいけれども淋／しい、／余りにも幸福だつた一ヶ月今は去る、何時の／日にか、きつと参りませう／ 右で香港終り

二月五日 曇／味気なきお船に夜が明けたとてもよく／揺れる一同の者全く静かなり何時もの／元気はどこえやら船に酔はない私は／とても退屈する お船に乗るとお腹が／空いて仕方なく一行八名中で私のみ食／事する、横になり思ひ浮ぶは去りし思／ひ出 広東 前線 香港、九竜！！啄木の／歌の如く／別れ来てふとまた、けばゆくりなく／冷たきもの、頬を流る、／何か知らねど寂しい！！船は揺れる

二月六日 曇／ジグザク航路の船が行く、見渡すかぎり／の海原、うねつた船足の跡白く遥るか／遠く香港は去る デツキに来る潮風に／散る髪も長い広東で覚えた／何時日君再来〔ハウリンチエンアイライ〕を歌ふ声は遠く風に／のつて海に渡る 任務を果たして帰る我等／は幸なり／四時半高雄へ着く下船出来ず船に／一泊する事になる去年十一月二十三日高／雄を出て二ヶ月余り 生きて再び帰ら／ずとも悔なしと誓ひし言葉も今は感慨／深きものあり あれやこれやと思ふ中に遂に午

前三時過ぎる 後一時間ほどと／と／とする 香港の夢を見た。

二月七日 雨／朝食後上陸準備 十時に上陸し遺骨／を見送る 男子は検疫所へ我等は荷物／の番をする 税関も無事通過し正午太／田館に着く きたない旅館、おすしの／昼食をなして後横になる 余りにきたな／いので一同して大掃除をする夜は久振り／にお蒲団と蚊張りにび／と休む上陸／した一同は元気なり

二月八日 晴／お蒲団の感じの良さにお寝坊する／八時半起床井御飯でお腹を作る／本日より配給米天国より地上に來りし／感あり／一同にて足立閣下や副官によせ書して／出すお船で一緒だつた水兵さん遊び／に來る／午后愛と知の生活を読む四時頃波／止場へ行くあゝもう一度南支へ行き／度い、高雄神社に参拝山下に見／ゆる港、船、船！！夜は九時頃床／に着く

二月九日 晴／七時起床夜明けの美しさを味わる、や／はり香港より日の出が早い／昨日の水兵さん方を波止波までお見送／りする朝食後町を散歩しお菓子／を買ふ／昼食はうどん一ぱい 午后頭痛にな／やまされ夕方まで休む

二月十日 晴／七時起床 朝食後セーターを編み上／げる美味しいぜんざいに一同満足せり／午后一同して思出話にふける、トランプ／などして遊ぶ

二月十一日 晴紀元節／朝食前皇居遥拝、食後荷造り／などする 午後高雄神社に参拝す／夕食後風呂に入り 午後十時二十分／発基隆行準行に乗車満員にて休め／ず遂にてつ夜する本島人のチンプンカンプン／が耳ざわりになる

二月十二日 雨／八時過ぎ基隆駅着 身体は疲かれる／風邪きみ 九時半駅の近くの常盤館／へ行く／大町部隊にて種痘する昼食後頭痛／の為床に付く 夕食後国民学校にて／静岡県人の人々の演芸を見る十一時／頃宿に帰

る 石田さんとおそくまで／話をする
 二月十三日 雨／明け方少しばかりまどろむ
 朝食も美／味しい／レコードを久し振りに聞
 く石田さんと買／物をする 午後兵隊さんと
 歌舞伎を／見に行く「土屋主税」所作事(つ／
 り女)を観る 久しぶりに面白かつた帰／宿
 後荷物を整理して波止場に送／る 明日は台
 湾ともお別れか、いよ／／内地え向ふのだ
 二月十四日 雨／午前六時半起床 八時宿を
 出発す／大和丸に乗船 やつぱり三等とはな
 さ／けなや、でもゆつくりと席を取る九時／
 四十分出航する、しばらくは外に出らず／夕
 方甲板に出る暮れ行く船上さらば／／、こ
 れより危険航路につき非常／訓練などする
 一万トンのお船も三十／度位ゆれる夜全速力
 にて進むので両／ゆれにて大変なり船酔ひ続
 出一行／中も二三名小間物をする一行の看護
 ／にて大童なり
 二月十五日 曇／お船はZ航行甲板に出る人
 少しお腹が／へるので三人分を食しボーイに
 笑はれる／食べてはねる生活、いやでも致し
 方な／し
 二月十六日 曇／今日も波の上 静かな海上
 今の気候と／してはめづらしい波との事瀬戸
 内海を／行くが如し／甲板には人々が一ぱい
 出てる出航以来／入浴する者我一人なりし
 が本日は多勢／なり／日本の本土も間近く明
 朝は門司着との／事一同仕度に余念なし
 二月十七日 雨後曇／早朝門司入港す無事内
 地の山野を／見る生きて再び帰れるとは運の
 強さに／我ながら驚く さすがニヶ月とて寒
 いこと／南国帰りに天はつれなくみぞれさへ
 降る／一宮班の母親連迎ひに来る なれど我
 には／従兄が来るのみ 聞けば父は脳溢血に
 て／去る十二日たをれるとの事 とりみださ
 ぬ我に／一寸安心する 父よ我が帰るまで生
 きて／あれ、宿にて夕食を取り八時駅に行く
 ／十時六分門司発急行に乗り関門トンネル／
 を通り一路なつかしの故郷へ進み行く
 二月十八日 曇／ねむれぬ一夜を過し十一時

名古屋駅着／県庁に知事閣下に帰還報告の後
 昼／食後師団司令部に挨拶し各新／聞社に報
 告し四時五十分の汽車にて／一宮へ帰る女青
 の人々市其の他の団体／の出迎えを受け花束
 にかこまれて真清／田神社に参拝し町内の
 人々と共に家／に帰る夕食後名古屋に入院中
 の父／の元へ瘦せた顔！！永い間心配せし／
 我が子の無事を言えぬ口元に笑を浮／べ喜こ
 んで下さるお許し下さいお父さん／と永い間
 の不孝を人知れず詫びたい／気持となる、せ
 まい部屋に父母と三人／で寝る／出発して帰
 還まで九十九日目に帰る／長い様な短かい慰
 問行であつた、

二月十九日 午後記者連と座談報告会を開
 く

二月二十日 市長、助役さん等に帰還報告
 をする

二月二十一日 休養日

二月二十二日 真清田神社に於て帰還報告
 祭を行はる

二月二十三日 皇太神宮に参拝帰還報告す

二月二十四日 実科高女にて報告会をなす

二月二十五日 一宮高女(母校)にて発表
 会をなす

二月二十六、二十七日 南支出征中の家族
 との面会をなす

二月二十八日 大毛の遺品伝達に行く

三月七日 一宮第二国民学校にて市民一般
 に慰問／団一行の報告発表会を行う、

三月十三日 豊橋公会堂に於て午後二時及
 夜は七／時より二回報告発表会を行う

三月二十一日 葉栗町に報告会をなす

四月十二日 慰問団全員にて名古屋陸軍病
 院本院／及第二分院を慰問し演芸を行す夜は
 らく楽にて県軍事課長の招宴に行く

四月十三日 豊橋陸軍病院本院及高師分院
 の／慰問演芸会を行ふ

四月十四日 修善寺温泉に一泊する

四月十五日 午後豊橋陸軍病院古奈分院を
 慰／問演芸を行ふ／夜は一同にて慰問団の解

散式を行ふ／ 右にて慰問団の解散す
 十月六日 日婦代表慰問隊員として大府陸軍療養所へ行く(愛馬花嫁)「夢の城ヶ島」
 十一月二十二日 萩原町萩の里園主余郷宝生氏の願により「白夜勇士」の慰問演芸をなす
 十一月二十六日 名古屋陸軍病院本院え個人で歌にて慰問す
 十二月八日 萩の里余郷氏と共に茶慰問の折舞踊／歌踊を余興とする「逢ひ見ての」「愛馬／花嫁」
 十九年四月二十二日 名古屋陸軍病舎島分室を慰問す「お夏／可愛や」「潮来追分」をなす
 五月七日 右島分院慰問する「佐渡の故郷」／「蘇州夜曲」「別れ船」を歌ふ
 (終り)

【注】

○慰問団の略日程

昭和17年

11月13日 県庁集合。名古屋駅より急行乗車、神戸駅着。神戸館(海外渡航者用旅館)宿泊。
 14日 神戸港より富士丸(神戸—基隆定期航路の就航船中最も豪華な貨客船)乗船、出帆。
 18日 基隆着、上陸。基隆駅より台北へ。朝陽号旅館(内地人経営旅館)宿泊。
 19日 台北駅より急行乗車、高雄へ。春田館(老舗高級旅館)宿泊。
 22日 汽車で屏東へ行き、屏東見物
 23日 高雄より天領丸(陸軍徴用船)乗船、出帆。(日本出国。税関の荷物検査を受ける)
 24日 汕頭着。戦地での第一回慰問。
 26日 九竜上陸。東亜ホテル(高級ホテル)宿泊。
 27日 九竜出帆。正午頃敵機来襲あり。広東着。大倉部隊を宿舎とする。
 30日 前線めぐり開始。トラックで仏山へ。仏山ホテル宿泊。

12月1日 仏山停車場より汽車で三水へ。八九六四部隊(歩兵第108連隊、通称鳳八九六四部隊。昭和17年に補充隊歩兵第六連隊に変更、愛知県出身者を主に加えた)へ。
 2日 夜敵の攻撃あり。トラックで最前線の横江へ。
 3日 ヤンマー(ヤンマー船)で三水より新圩へ。帰還後三水より広東へ移動。
 6日 広東よりトラックで最前線の南村、太平城、神岡へ。太平城。
 7日 竹料へ。
 8日 南村へ。
 9日 新街へ。
 13日 石橋頭へ。
 14日 朱村へ。増城(町は廢墟)へ。
 15日 トラックで石灘(敵の爆破で橋は無い)、ガソリンカーで石竜へ。
 16日 ヤンマーで川を下り石灘より汽車で広東へ。以上で仏山方面、流溪水方面、東江地域の前線慰問行終了。
 17日 この日より広東近郊の慰問。
 昭和18年
 1月4日 軍用船二三五号で広東出帆、九竜へ。宿舎は横山ホテル。
 6日 連絡船で香港へ。
 7日 香港へ。
 8日 香港へ。
 9日 深川へ。ランチの送迎で砲艦須磨(旭艦長)へも。
 31日 団長のみ飛行機で帰る
 2月2日 長城丸(陸軍徴用船)乗船。
 4日 九竜出帆。
 6日 高雄着。船中泊。
 7日 高雄に上陸し、税関通過。太田館宿泊。
 11日 高雄発基隆行準行乗車。
 12日 基隆駅着。常盤館宿泊。

- 14日 大和丸(神戸—基隆定期航路の就航大型船)乗船、基隆出航。
- 17日 門司港着。家族の迎えあり。門司発急行乗車。
- 18日 名古屋駅着。帰還報告に県庁へ。
- 4月15日 慰問団解散式。